

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

今週の紙面

- 2面 女性ニュース
- 3面 読者のページ/詩/俳句
- 4面 年金相談/女性史/人「性」いろいろ/法律相談
- 5面 憲法のはなし/ホット
- 6面 股関節の痛み/もう一品/母の歴史
- 7面 ジェンダー/主張/北京+25



東京・豊島区 関根和子

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです



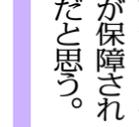
#GoTo キャンパス!

学生に国の責任で 学びの保障を



実技もオンライン
(体育学部4年)

保健体育の教員を指している学生が多くいて、実技が重要なのに、15回の授業のうち11回はオンラインの実技指導に。将来、教員として生徒たちの期待を裏切りかねないかと不安…。



交流できてこそ
(芸術学部4年)

アトリエで自由に制作したり、ほかの人の作品を見て交流することができない。学生同士の自然なコミュニケーションの中から新しい視点、価値観、問題意識が獲得できる。そういう環境が保障されてこそ大学だと思っ

新型コロナウイルス感染対策を講じながら6月には学校再開をした小、中、高校。ところが多くの大学では今もキャンパスへの立ち入りが制限され、オンライン授業が続いています。「入学後、一度も大学に行けていない」「部屋にこもりきり」。学生たちは大学での感染防止対策の財政支援を国に求め、新しいアクションを起こしました。



記者発表で署名を訴える「一律学費半額を求めるアクション」の学生たち。(9月30日 国会内で)



社会的損失だ
(看護学部3年)

前期は全てオンライン。資料提示のみで質問もできず、課題に沿って自己学習。全授業、レポート提出に追われ、朝から晩まで誰とも話せず、頭がおかしくなりそうだった。後期は病棟実習60時間が15時間に短縮。残りは教室での演習とオンライン授業で代替。小児や周産期など現場経験や深めたい方向を知る機会も失った。4年生は全て実習がなくなった。これは社会的な損失だ。



学生には恩恵なし
(文系2年)

菅首相は「コロナ対策にとりくむ」とは言うが、学生の立場からするとその恩恵は何も受けていない。大学もだが、国こそ動いてほしい。先輩たちも内定が取り消しになった。就職支援もしてほしい。



大学にいる気がしない
(社会学部2年)

画面にレジュメが提示され、先生の音声が一方的に流れるだけ。終わったらレポートにして提出。その作業をひたすら続け、大学にいる気がしない。経済的理由から下宿を引き払い、実家に帰った。家族に会って本当によかった…。帰省したくても感染や差別などが不安で帰れない学生も大勢いた。後期も全てオンラインに。

読者のみなさんへ 会員のみなさんへ

2021年1月からの新婦人しんぶん 発行曜日変更についてのお知らせ

新婦人しんぶんをご愛読いただき、ありがとうございます。日頃のご協力に感謝申し上げます。新婦人しんぶんは創刊以来、発行曜日を木曜日としてきましたが、2021年1月より土曜日に変更いたします。

新婦人しんぶんは、全国6つの工場毎週土曜日に印刷され、月曜日までに新婦人支部事務所などに届けられ、会員をはじめ、多くの方の協力で配達されています。近年、月曜日の祝日が増え、木曜日までの配達の手立てをとる日数が短くなる状況が生まれています。また、働く人が平日に配達する負担が増えています。

今回の変更は次世代や働く人などより多くの方が無理なく配達できるよう、配達に余裕を持たせるためのものです。印刷曜日や支部事務所などに新婦人しんぶんが届く曜日は変わりませんので、早めにお届けする努力を続けます。班で配達・集金活動への参加を広げる話し合いの機会にできればと考えます。

読者のみなさんと会員のみなさんにご理解をいただき、引き続きご協力をお願い申し上げます。
2020年10月20日 新日本婦人の会第179回中央委員会

対面授業も再開というが

文科省は学生たちの声に押され、8月9月、短大や高専を含む全国の国公私立大学の98%、1060校を対象に後期の授業方法を調査。その結果、約2割の大学が後期から全面的に対面授業を、8割の大学が対面とオンライン授業の併用を予定していると発表しました。しかし学部や学年、地域によって大きく異なります。オンラインのみの大学や併用といても対面授業は1~2割という学生が圧倒的多数です。

後期の授業開始に合わせ、緊急に「#GoTo キャンパス」院内集会が9月30日、参院議員会館で開かれました。主催したのは100を超える大学でつながる学生たちです。

「国はトラベル、飲食、イベント、商店街などのGoTo キャンペーン事業に、1兆6794億円の税金を投入する一方、大学は感染防止対策の予算が足りず、対面授業が再開できません。せめて大学には通わせてほしい」と学生たち。国に「対面授業再開のための予算措置を」求めるオンライン署名を呼びかけました。

オンライン署名を開始

